

第4期(平成21年3月期)中間決算

平成20年12月22日



阪神高速道路株式会社

目次

| | |
|-----------------------------|----|
| <u>1. 経営成績</u> | |
| (1) 連結業績及び利益増減分析 | 2 |
| (2) 主なトピックス | 11 |
| (3) 業績見通し(連結及び個別) | 18 |
| <u>2. 阪神高速グループの概要</u> | 21 |

1 - (1) 連結業績及び利益増減分析

当期連結決算の概況(1)

当社グループの当中間連結会計期間における連結業績は、営業収益1,237億円(対前年同期比+324億円)、営業利益は5億円(対前年同期比-16億円)、経常利益は7億円(対前年同期比-15億円)、当期純利益は14億円(対前年同期比-11億円)となりました。
当期純利益の内訳は、親会社利益13億円、子会社利益0.6億円となりました。

(1) 高速道路事業

高速道路事業においては、景気動向の悪化や燃料費高騰の影響等で交通量が減少し、高速道路通行台数は、一日あたり88.3万台(前年同期91.1万台、前年同期比3.0%減)となりました。これにより料金収入も前年同期比3.5%減の869億円となりました。

また、機構への債務引渡しに伴う道路資産完成高は、京都市道高速道路1号線(稲荷山トンネル)の開通によりほぼ皆増の328億円となりました。これらを含めた高速道路営業収益は前年同期比35.3%増の1,226億円となりました。

一方、営業費用については、協定に基づく機構への貸付料支払いや管理費用等のほか、道路資産完成高と同額の道路資産完成原価を計上したことから、前年同期比37.9%増の1,222億円となりました。

これらにより高速道路事業の営業利益は前年同期比79.8%減の4億円となりました。

当期連結決算の概況(2)

(2) 受託事業

受託事業においては、京都市道高速道路1号線及び2号線のランプ新設事業(京都市施行部分)に関する工事をはじめとして、国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設・改築・維持・修繕等を実施したことにより、営業収益は3億円(対前年同期比+3億円)、営業損失は1億円(対前年同期比+0億円)となりました。

(3) その他の事業

その他の事業においては、休憩施設の運営、駐車場施設の運営、不動産賃貸等に係る事業を継続して展開しました。

休憩施設の改修工事の影響による営業収益減・営業費用増のほか、駐車場施設の営業費用減などにより、営業収益は全体として7億円(対前年同期比+0億円)、営業利益は、2億円(対前年同期比+0億円)となりました。

連結業績(セグメント別)の概要



単位: 億円 (単位未満切捨)

| 高速道路事業 | 営業収益 | 営業費用 | 営業利益 |
|---|--|---|-------------------------|
| 高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等 | (料金収入等) 894 (対前年同期比 6) | (道路資産賃借料) 702 (対前年同期比 +2) | 4 (対前年同期比 15) |
| | (道路資産完成高) 328 (対前年同期比 +326) | (道路資産完成原価) 328 (対前年同期比 +326) | |
| | (その他) 4 (対前年同期比 +0) | (管理費用等) 191 (対前年同期比 +6) | |
| 高速道路事業 計 | 1,226 (対前年同期比 +319) | 1,222 (対前年同期比 +335) | 4 (対前年同期比 15) |
| 受託事業 | 営業収益 | 営業費用 | 営業利益 |
| 国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持修繕等及びその他の委託に基づく事業等 | 3 (対前年同期比 +3) | 4 (対前年同期比 +4) | 1 (対前年同期比 0) |
| その他の事業 | 営業収益 | 営業費用 | 営業利益 |
| 駐車場施設の運営 休憩施設の運営 不動産賃貸等 | 7 (対前年同期比 +0) | 4 (対前年同期比 +0) | 2 (対前年同期比 +0) |
| 全事業 計 | 1,237 (対前年同期比 +324) | 1,232 (対前年同期比 +340) | 5 (対前年同期比 16) |

セグメント別損益の状況(1) 高速道路事業



単位: 億円 (単位未満切捨)

| 区 分 | | H19中間実績 [A] | H20中間実績 [B] | 増減 [B] - [A] |
|-------------|-----------|----------------|----------------|-----------------|
| 営業 収益 | 料 金 収 入 等 | 900 | 894 | 6 |
| | 道路資産完成高 | 1 | 328 | + 326 |
| | そ の 他 | 4 | 4 | + 0 |
| | | 906 | 1,226 | + 319 |
| 営業 費用 | 道路資産賃借料 | 699 | 702 | + 2 |
| | 道路資産完成原価 | 1 | 328 | + 326 |
| | 管理費用 | 185 | 191 | + 6 |
| | | 886 | 1,222 | + 335 |
| 高速道路事業 営業利益 | | 19 | 4 | 15 |

主な増減内容

営業収益

- ・交通量は、景気動向の悪化や燃料高騰の影響等により交通量が減少し、一日あたり平均通行台数は約88.3万台(前年同期比3.0%減)
- ・料金収入は、通行台数の減少に伴い、869億円(前年同期比3.5%減)
- ・ETC利用率は中間期末において75.8%(前年同期比5.2ポイント増)
- ・道路資産完成高は稲荷山トンネル開通等により328億円(前年同期比326億円増)

営業費用

- ・道路資産賃借料は、2億円の増
- ・管理費用は、ETC設備等の増設に伴う減価償却費の増(+4億円)等

セグメント別損益の状況(2) 関連事業

単位: 億円 (単位未満切捨)

| 区 分 | | H19中間実績 【A】 | H20中間実績 【B】 | 増減 【B】 - 【A】 |
|-----------|------|----------------|----------------|-----------------|
| 受託事業 | 営業収益 | - | 3 | +3 |
| | 営業費用 | 0 | 4 | +4 |
| | 営業利益 | 0 | 1 | 0 |
| その他の事業 | 営業収益 | 7 | 7 | +0 |
| | 営業費用 | 4 | 4 | +0 |
| | 営業利益 | 2 | 2 | +0 |
| 関連事業 営業利益 | | 2 | 1 | 0 |

主な増減内容

受託事業
受託工事の完成により営業収益は皆増の3億円を計上したものの、営業費用が4億円となり、営業損失は対前年度比0億円の増

その他の事業
休憩施設の改修工事による営業収益減・営業費用増等のほか、駐車場施設の営業費用減などにより、営業利益は対前年度比0億円の増

連結貸借対照表の概要

単位: 億円 (単位未満切捨)

| 資産の部 | | | |
|----------|-------|-------|-----|
| 科目 | H20.3 | H20.9 | 増減 |
| . 流動資産 | 2,059 | 1,706 | 353 |
| うち仕掛道路資産 | 1,382 | 1,297 | 85 |
| . 固定資産 | 505 | 509 | + 4 |
| 資産合計 | 2,565 | 2,216 | 349 |

| 負債・純資産の部 | | | |
|------------|-------|-------|------|
| 科目 | H20.3 | H20.9 | 増減 |
| . 流動負債 | 580 | 390 | 189 |
| . 固定負債 | 1,726 | 1,531 | 195 |
| 負債合計 | 2,307 | 1,922 | 384 |
| . 株主資本 | 258 | 272 | + 14 |
| 資本金 | 100 | 100 | - |
| 資本剰余金 | 100 | 100 | - |
| 利益剰余金 | 58 | 72 | + 14 |
| . 少数株主持分 | - | 20 | + 20 |
| . 評価・換算差額等 | - | 0 | 0 |
| 純資産合計 | 258 | 293 | + 35 |
| 負債・純資産合計 | 2,565 | 2,216 | 349 |

主な増減内容

流動資産
仕掛道路資産 85 億円
譲渡性預金 184 億円

固定資産
ETC機械装置等 + 4 億円

流動負債
1年以内返済予定長期借入金 61 億円
未払金 145 億円

固定負債
道路建設関係長期借入金 192 億円

純資産
当期純利益 + 14 億円

連結キャッシュ・フロー計算書の概要



単位: 億円 (単位未満切捨)

| 区分 | H19.9 | H20.9 |
|--------------------|-------|-------|
| 営業活動によるCF | 211 | 29 |
| 投資活動によるCF | 11 | 19 |
| 財務活動によるCF | 95 | 266 |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 | 211 | 90 |

高速道路会社のC/F計算書

高速道路への建設投資は、高速道路会社にとって独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する「商品」のため、投資額は『営業活動CF』のマイナスに整理し、これに見合う資金は借入調達するため『財務活動CF』のプラスとなる。

高速道路が開通しこれを機構に引き渡す際に、道路資産完成高を『営業活動CF』のプラス、借入金の引渡額を『財務活動CF』のマイナスとする。

従って、高速道路の完成高が投資額を上回る当中間連結会計期間の『営業活動CF』はプラスとなる。

当期個別決算の概要



単位：億円〔単位未満切捨〕

| 経営成績 | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 区分 | H19.9 | H20.9 | 増減 |
| 営業収益 | 907 | 1,230 | + 323 |
| 営業利益 | 19 | 5 | 13 |
| 経常利益 | 19 | 6 | 13 |
| 当期純利益 | 23 | 13 | 9 |

| 財政状態 | | | |
|--------|-------|-------|------|
| 区分 | H20.3 | H20.9 | 増減 |
| 総資産 | 2,542 | 2,149 | 392 |
| 純資産 | 249 | 263 | + 13 |
| 資本金 | 100 | 100 | - |
| 資本剰余金 | 100 | 100 | - |
| 利益剰余金 | 49 | 63 | + 13 |
| 有利子負債 | 1,101 | 802 | 299 |
| 自己資本比率 | 9.8% | 12.2% | 2.4% |

1 - (2) 主なトピックス

取組内容

- 高速道路ネットワークの整備 ~ 8号京都線(稲荷山トンネル)の開通 ~
- 3号神戸線フレッシュアップ工事の実施
- ETC・利用促進についての取り組み
- 「交通安全対策アクションプログラム」・「新渋滞対策アクションプログラム」・「PA改善アクションプラン」による取り組み
- 環境への取り組み、地域・社会への貢献

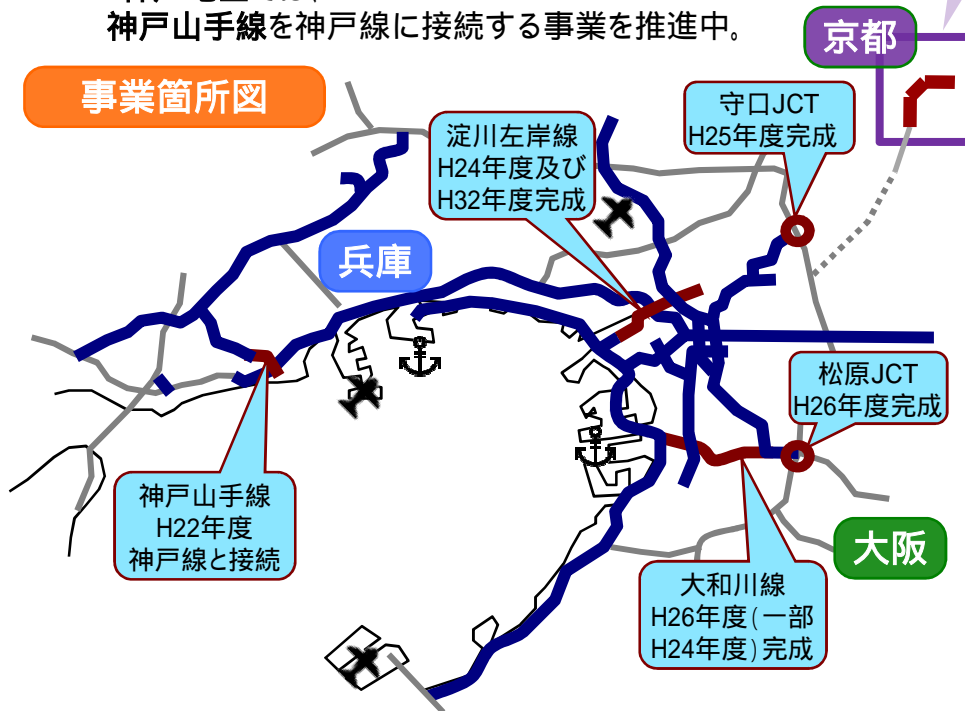
高速道路ネットワークの整備～8号京都線で新たな開通～

京都地区では、
8号京都線 [山科～鴨川東] 間が
平成20年6月1日に開通。

引き続き、残る [鴨川東～上鳥羽] 間を事業推進中。

大阪地区では、
都市再生環状道路を形成する大和川線、淀川左岸線および
守口ジャンクションと松原ジャンクションを事業中。

神戸地区では、
神戸山手線を神戸線に接続する事業を推進中。



京都東部方面から京都中心部へのアクセスに要する時間が大幅に短縮
(京都駅と山科区役所との所要時間がピーク時で約半分。)

3号神戸線(摩耶～芦屋間)フレッシュアップ工事の実施

工事を集約し、工事に伴う交通への影響を軽減する工事手法として昭和48年から実施。

平成20年度は、3号神戸線(摩耶～芦屋間)で実施。(神戸線では阪神・淡路大震災後初めての実施)

8日間昼夜連続の終日通行止め。実施時期は天候、交通量等を考慮して選定。



ETC・利用促進についての取り組み

ETC車載器購入支援の実施

- ・ 「ETCらくトク0円キャンペーン」の実施
(H20.4.1~6.30、9.24~12.19)
- ・ 稲荷山トンネル開通記念イベント
(H20.5.24~25、6.7~8)
- ・ 地域のイベントにブース出展などで参加
(H20.7.19~21、7.26~8.3)



(泉大津サマーフェスタ 7/21)



(オーサカキング 7/26~8/3)



(ETCらくトク0円キャンペーン)

ETC利用率は中間期末において75.8 %
(前年同期比5.2ポイント増)

料金関連施策の実施

事前に申込みをした土曜・休日に、ETCにより定額で乗り放題となる企画割引を新たに実施。

- ・ 阪神高速ETC一日周遊パス
(H20.6.15~7.6、7.19~8.31、10.4~11.3の土曜・休日)
- ・ 阪神高速京都線ETC週末おでかけパス
(H20.10.4~11.3の土曜・休日)



各アクションプログラム等による取り組み

交通安全対策アクションプログラム

- ・**カーブ対策**：すべり止め舗装、ITS技術を利用した速度抑制対策・渋滞末尾への追突防止対策
 - ・**分合流対策**：ポストコーンによる整流化、ITS技術による合流支援
 - ・**本線料金所での対策**：混在レーン廃止による追突防止、レーン運用見直し
 - ・**落下物対策**：料金所等における積載不良車両への是正指導の強化、落下物の迅速な回収
- 以上の対策等により平成22年度には平成17年度比1000件減を目標として取り組んでいます。
平成20年度上期の事故件数は、平成17年度上期に対し526件減となっています。

新渋滞対策アクションプログラム

短期的には、交通運用による対策、入路規制や情報提供の充実等の交通管制による対策、ETCを活用した料金施策による対策(社会実験による時間帯割引等)に取り組むとともに、中長期的には道路ネットワーク整備を進めています。

今期は、交通運用による対策として、3号神戸線入り深江付近の勾配変化部(サグ部)において、渋滞を軽減させる対策として、上り坂であることを認知して頂くための水平標示塗装や標識を設置しました。



(深江付近に設置した水平標示)

PA改善アクションプラン

お客さまに「ほっと」していただける場所として、「きれい・あんしん」「やすらぎ」「ぬくもり」を感じていただけるよう、順次取り組んでいます。

- ・すべてのPAでトイレ改修完了
洋式トイレ化、温水洗浄便座の導入、多機能トイレの増設・充実化
- ・朝潮橋、京橋(西行)PAリニューアルオープン
レストラン・売店を全面リニューアル改修、休憩ゾーンの拡大、喫煙室の設置
- ・笑顔でお出迎え PAクルーによる笑顔、挨拶、一声かけを実施



環境への取り組み、地域・社会への貢献

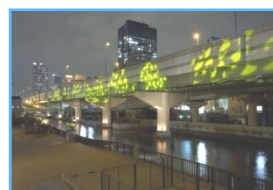
環境負荷低減に向けた意識向上への取り組み

- ・ H19年度に引き続き、事業執行に伴う環境負荷低減や都市高速道路としての沿道環境への配慮について考えるきっかけとすべくH20年度においても「環境レポート」を発行しました。
- ・ 環境保全活動・環境学習推進法に基づいて、学校・地域・企業において積極的に環境教育を推進する社会的背景に応え、環境に関する先端技術・企業としての取り組みなどについて小中学校へ社員を派遣して、いわゆる出前講座を開講し、生徒たちの環境学習を支援しています。
- ・ 国土交通省や道路事業者と共に「エコロードキャンペーン」を主催して、道路を利用するドライバーへの呼びかけも行っています。

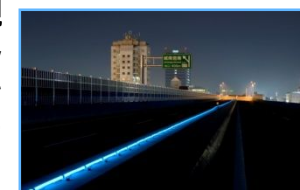


社会とのパートナーシップによる景観形成

- ・ 東横堀川・堂島川
ライトアップ事業
へ参画しています。
(環状線高架下付近
で実施)



- ・ ドライバーへの内部景観を訴求する新たな試みとして、夜間の走行の快適性を確保するライトファイバーを設置しました。



阪神高速ミナミ交流プラザ(LOOP A)がオープン

大阪文化の発見・創造・発信の拠点として、大阪ミナミのアメリカ村付近の阪神高速高架下に開設。ミナミ活性化を目的として設立された団体(ミナミまち育てネットワーク)と連携し、アーティスト等の交流の場としてのサロンスペースの提供、ミナミを中心とする地域情報の発信、阪神高速に関する情報発信などを行っています。



1 - (3) 業績見通し(連結及び個別)

平成21年3月期連結業績の見通し

単位: 億円 (単位未満切捨)

| 区 分 | | H19実績 [A] | H20見通し [B] | 増減 [B] - [A] |
|-----------|---------|--------------|---------------|-----------------|
| 営業 収益 | 高速道路事業 | 2,082 | 2,224 | + 142 |
| | 料金収入等 | 1,835 | 1,777 | 58 |
| | 道路資産完成高 | 236 | 437 | + 201 |
| | その他 | 10 | 8 | 1 |
| | 関連事業 | 53 | 62 | +8 |
| | 計 | 2,135 | 2,286 | +150 |
| 営業 利益 | 高速道路事業 | 31 | 13 | 18 |
| | 関連事業 | 3 | 4 | + 1 |
| | 計 | 35 | 18 | 17 |
| 経 常 利 益 | | 38 | 18 | 20 |
| 当 期 純 利 益 | | 29 | 18 | 10 |

連結業績の見通し

税引後当期純利益は、親会社の利益16億円に連結子会社8社の利益等2億円を加えた18億円(対前年度比10億円減)となる見通しです。

(注) 平成21年3月期の業績見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

平成21年3月期個別業績の見通し



単位: 億円 (単位未満切捨)

| 区 分 | | H19実績 | H20計画 | H20見通し |
|-------|---------|-------|-------|--------|
| 営業収益 | 高速道路事業 | 2,071 | 2,354 | 2,215 |
| | 料金収入等 | 1,835 | 1,916 | 1,777 |
| | 道路資産完成高 | 236 | 437 | 437 |
| | 関連事業 | 48 | 56 | 56 |
| | 計 | 2,120 | 2,410 | 2,271 |
| 営業利益 | 高速道路事業 | 28 | 10 | 10 |
| | 関連事業 | 1 | 2 | 2 |
| | 計 | 29 | 13 | 13 |
| 経常利益 | | 32 | 2 | 14 |
| 当期純利益 | | 25 | 1 | 16 |

個別業績の見通し

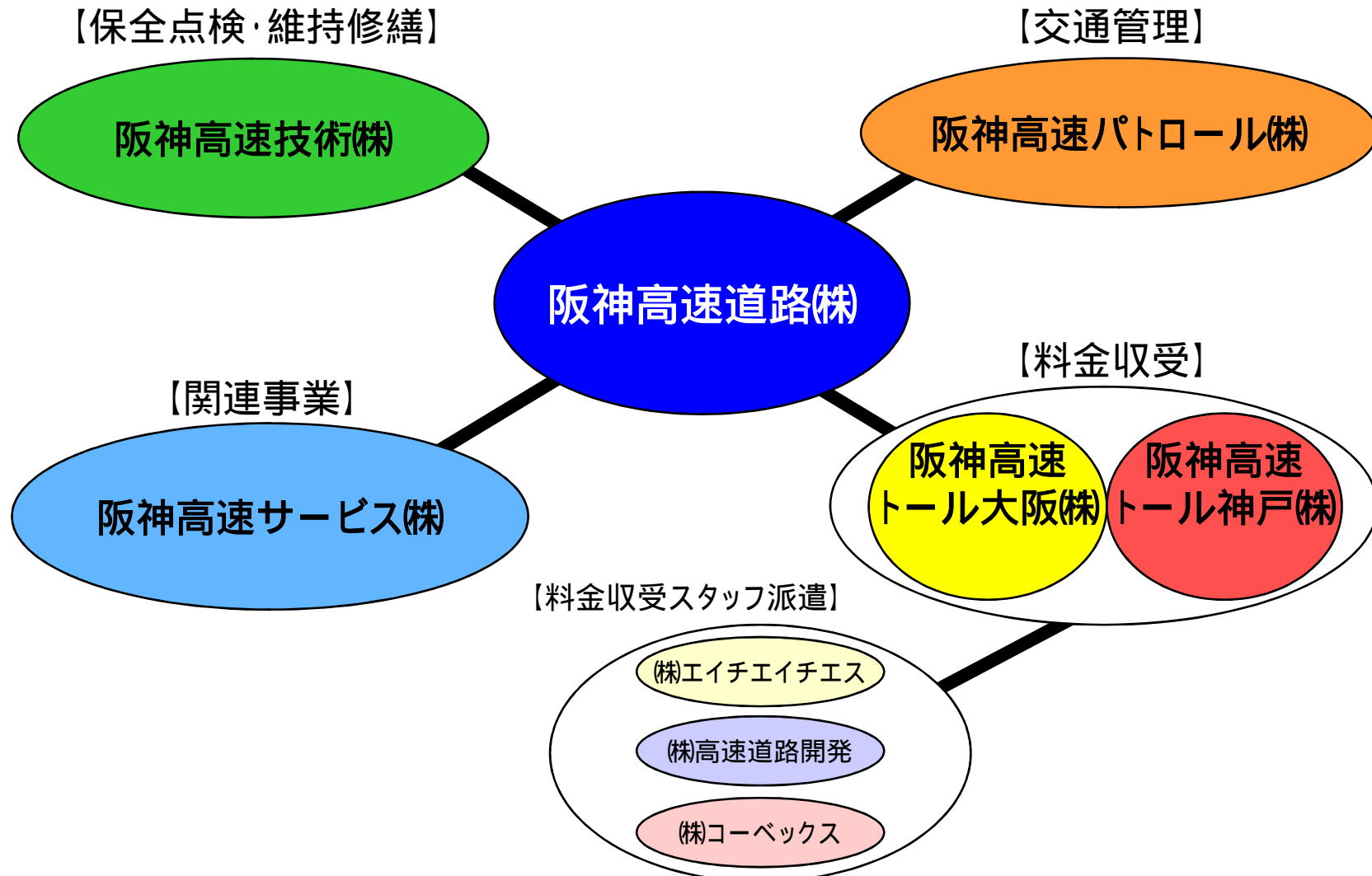
営業収益は2,271億円(対前年度151億円増、対計画139億円減)、営業利益は13億円(対前年度17億円減、対計画同額)、経常利益は14億円(対前年度18億円減、対計画11億円増)、当期純利益は16億円(対前年度8億円減、対計画15億円増)となる見通しです。

- 高速道路事業の営業収益は、上半期に引き続き交通量が計画に比べ低い見通しであること等により計画を下回る2,215億円(うち料金収入等1,777億円)となる見込みですが、営業利益は管理費用の減により計画と同額の10億円を見込んでいます。
- 関連事業は、営業収益及び営業利益はともに計画と同額を見込んでいます。

(注) 平成21年3月期の業績見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

2. 阪神高速グループの概要

グループ経営体制(全体イメージ)



阪神高速グループの概要

高速道路事業

道路事業子会社

【交通管理】1社

阪神高速パトロール(株)



【保全点検・維持修繕】1社

阪神高速技術(株)



【料金收受】2社

阪神高速トール大阪(株)
阪神高速トール神戸(株)



【料金收受スタッフ派遣】3社

(株)エイチエイチエス
(株)高速道路開発
(株)コーベックス

関連事業子会社

【PA事業・駐車場事業等】

【人材派遣事業等】

阪神高速サービス(株)

1社

その他の事業



| | | |
|-----------|----------|---|
| 19.3.31時点 | 連結子会社 2社 | 阪神高速サービス(株) 阪神高速技術(株) |
| 19.9.30時点 | 連結子会社 3社 | 阪神高速サービス(株) 阪神高速技術(株) 阪神高速パトロール(株) |
| 20.3.31時点 | 連結子会社 5社 | 阪神高速サービス(株) 阪神高速技術(株) 阪神高速パトロール(株) 阪神高速トール大阪(株) 阪神高速トール神戸(株) |
| 20.9.30時点 | 連結子会社 8社 | 阪神高速サービス(株) 阪神高速技術(株) 阪神高速パトロール(株) 阪神高速トール大阪(株) 阪神高速トール神戸(株) (株)エイチエイチエス (株)高速道路開発 (株)コーベックス |

関係会社の状況

連結子会社 平成20年9月30日現在

| 名称 | 住所 | 資本金 (百万円) | 主要な事業 の内容 | 議決権の 所有割合(%) | 関係内容 |
|--------------|--------|--------------|------------------|-----------------|---|
| 阪神高速サービス(株) | 大阪市西区 | 40 | 高速道路事業 その他の事業 | 100 | 休憩所施設に係る業務を委託 駐車場施設を賃貸 スルーウェイカード事業等 |
| 阪神高速技術(株) | 大阪市中央区 | 20 | 高速道路事業 | 100 | 保全点検・維持修繕業務を委託 |
| 阪神高速パトロール(株) | 大阪市西区 | 10 | 高速道路事業 | 100 | 交通管理業務を委託 |
| 阪神高速トール大阪(株) | 大阪市西区 | 50 | 高速道路事業 | 100 | 料金収受業務を委託(大阪地区) |
| 阪神高速トール神戸(株) | 神戸市中央区 | 50 | 高速道路事業 | 100 | 料金収受業務を委託(兵庫地区) |
| (株)エイチエイチエス | 大阪市西区 | 40 | 高速道路事業 | (28.6) | 料金収受スタッフ派遣(大阪地区) |
| (株)高速道路開発 | 大阪市中央区 | 40 | 高速道路事業 | (30.5) | 料金収受スタッフ派遣(大阪地区) |
| (株)コーベックス | 神戸市中央区 | 14 | 高速道路事業 | (39.1) | 料金収受スタッフ派遣(兵庫地区) |

(注1) 主要な事業の内容欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しています。

(注2) 議決権の所有割合の()内は間接所有割合となっています。

◆本資料には将来の予測や見通しに関する記述が含まれておりますが、こうした記述は将来の業績等を保証するものではありません。将来の業績等は経営環境の変化などにより、目標と異なる可能性があることにご留意下さい。

【お問い合わせ】

阪神高速道路株式会社

経理部財務グループ

〒541-0056 大阪府中央区久太郎町4丁目1番3号

telephone: 06-6252-8121(代)

facsimile: 06-6251-6930

URL: <http://www.hanshin-exp.co.jp>